令和８年度第１回山鹿市子ども・子育て会議　会議録（要点筆記）

令和８年９月１５日（火）午後２時００分開会
山鹿市役所４０１会議室

〇委嘱状交付式
１　開式
２　委嘱状交付
３　閉式

〇子ども・子育て会議
１　開会
２　「山鹿市子ども憲章」唱和
３　福祉部長挨拶
４　会長あいさつ
５　議事
　１）子ども・子育て会議について（設置目的・役割について）
　２）山鹿市こども計画の令和７年度実績の検証について
　３）こども･若者意見箱集計結果について
６　その他
７　閉会

出席委員（１５名）

伊藤良高 委員	緒方淳一 委員	山田原野 委員	迎田浩二 委員
栗原昭浩 委員	森 利幸　委員	川端　波 委員	坂口美咲 委員
廣瀬卓三 委員	田上智子 委員	中原ひろみ 委員	河内知世 委員
下田佳子 委員	川口惠市委員	古川　浩美　委員	

欠席委員（２名）

渡辺研一 委員　　田代桂一 委員

事務局職員出席者

原　幸徳　福祉部長　　川上高博　政策審議員

〈福祉部子ども課〉

森　英州課長	前田智康　課長補佐	原　仁美 課長補佐兼係長
野中孝久 課長補佐兼係長	原　由美 主幹	金光賢信 係長
野見山和子　専門員	永田代志美　主任	松原由紀子 主事

午後２時００分　開会

【委嘱状交付式】

１　開式

事務局進行による開式宣言

２　委嘱状交付

事務局進行により新たに就任した６名の委員を紹介し、代表して森 利幸委員へ福祉部長より委嘱状を交付。

３　閉式

事務局進行による閉式宣言。

【子ども・子育て会議】

○事務局進行

委員１７名に対し出席委員１５名であるため条例第５条第２項に規定された議事定数の２分の１以上を満たしていることを宣言。

１　開会

事務局進行による開会宣言。

２　「山鹿市子ども憲章」唱和

全員起立し「山鹿市子ども憲章」唱和。

３　福祉部長挨拶

熊本地震の被災者への見舞いと職員派遣の報告に続き、昨年度の実績を踏まえ、委員の専門的な意見を今後の子育て支援施策の充実に繋げたいと挨拶。

４　会長挨拶

新たに加わった委員へ歓迎の言葉を述べるとともに、山鹿市が長年大切にしてきた「子ども憲章」の意義や、これからの「こども計画」の進捗確認・検証の重要性について語った。

５　議事

○事務局進行

条例第５条第１項に基づき、議事の進行を会長へ依頼。

○議長（会長）

事務局に対し、議事１、２、３の説明を要求。

〇事務局

議事１：子ども・子育て会議の概要について

事務局説明：子ども・子育て支援法等に基づく会議の役割（ニーズの反映、支援の審議、計画の進捗評価）や、今回初めて検証を行う「山鹿市こども計画」について説明。

議事２：山鹿市こども計画 令和７年度実績の検証について

事務局説明：全 54 事業のうち、主に評価「B（おおむね達成）」となった事業と評価C（未達成）になった 12 の事業のみ説明。

地域子育て支援拠点、子育て援助活動支援事業（ファミリーサポート）、医師修学資金貸与事業、「親の学び」プログラムトレーナー派遣事業、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた啓発活動（よかボス企業）、子育て応援の店、安全な歩道整備、安心安全な公園施設の整備、不登校児童・生徒への支援、就労支援、放課後デイサービス事業への現状と課題を説明。

議事３：子ども・若者意見箱 集計結果について

事務局説明：アンケート調査の実施概要について集計結果について説明

調査方法： WEB アンケート調査

調査期間： 令和８年８月１７日～９月１０日

調査対象： 山鹿市内に居住または通学している小学校５年生から高校生

回 答 数： ５０７件

設問内容： ①年齢/②居住校区/③「山鹿市が『こうなるといいな』と思うこと、『こまっていること』

- **小学生の主な声**：遊び場や店舗の少なさ、環境面への意見
- **中高校生の主な声**：バスの本数、道路の狭さやでこぼこ、移動手段の少なさ
- **全体１位**：買い物や商業施設への要望

行政で対応可能なものは各担当課で共有し、民間連携が必要なものは関係者と協議していく方針を確認。

◎主な質疑応答・意見交換：※ ≪≫は会議後に調査等の結果を別紙回答書に記載

①歩道整備・道路環境について（迎田委員）

迎田委員（児童養護施設）：「国道 3 号線の歩道橋（八幡校区）の事故後の進捗や、325 号線の歩道橋（ラ・スール学園ビル横）の傾斜が子どもたちにとって危険ではないかとの声を聞く。点検と状況確認をお願いしたい」

事務局 ：「3 号線は建設課を通じて国に確認し、325 号線は県が管轄のため情報を伝える」

≪国道３号線、県道３２５線歩道橋対応について：別紙回答書①に記載≫

②子ども憲章の現場での共有について（中原委員・学校長・保護者）

中原委員（PTA 連絡協議会）「子ども憲章について子育て支援の考え方が伝わってくる。学校や保育園の先生方へどこまで共有されているのか知りたい」

小学校・中学校の校長：「学校現場で日常的に憲章を唱和しているわけではないが、人権尊重やふるさとを愛する心など、目指す方向性は教育活動の中で大切にしている。た

だ、保護者や地域を含めてもっと周知・共有していくことが大事」

伊藤会長:「作った当初の熱意から時間が経つと形骸化しがちだが、校長室に貼ったり、職員室で話題にしたりするなど、改めて大人が原点に立ち返るきっかけにしてほしい」

≪子ども憲章の現場での共有について：別紙回答書②に記載≫

③人口減少・少子化、若者の定着と雇用について（川口委員・栗原委員・緒方委員）

川口委員（中学校長）:「卒業した子どもたちの多くが就職等を求めて市外や県外に出てしまい、山鹿に残る若者が少ない。将来の担い手や学校の存続も含めて非常に危惧している。公共交通も脆弱に感じ、若者離れの原因につながっているのではないか」

栗原委員（商工会）:「これだけ子育て支援に取り組んでいても出生数が減少しているのは、働く場の確保や経済的なゆとり、総合的な雇用・定住政策が不可欠ではないか」

伊藤会長:「メインストリート（豊前街道）の人通りがなく寂しく感じる」

事務局　:「市でも人口減少対策に全庁的に取り組んでいる。15～24 歳の転出超過が課題の一方、35～39 代の転入超過の状況もある。交通事情はバス運転手確保など厳しい実情がある」

≪公共交通（路線バス）について：別紙回答書③に記載≫

④施策評価シートについて（坂口委員）

坂口委員（療育相談員）:「施策評価シートに、ニーズに対する数値目標や実績がもう少し分かりやすくあると良い。」

≪施策評価シートについて：別紙回答書④に記載≫

⑤不登校支援・地域福祉の連携について（坂口委員・田上委員）

坂口委員（療育相談員）「教育支援センター等の不登校支援について、学校に戻るまでのスモールステップの連携をさらに検討してほしい」

田上委員（主任児童委員）:「不登校のお子さんや保護者に対して、地域の「おじいちゃん・おばあちゃん」の立場で力になりたい。10 月に研修を予定しており、地域の力を活かす方法を模索している」

≪不登校に対する連携について：別紙回答書⑤に記載≫

⑥子育て応援の店や生活環境について

（河内委員・廣瀬委員・川端委員・山田委員・古川委員・下田委員）

河内委員（保育園保護者）:「子育て応援の店（46 店舗）の存在をもっと早く知りたかった。周知や店舗の分かりやすさに工夫がほしい。また、移動手段や交通の便が子育て世代の大きなネックになっている」

事務局　：子育て応援の店は、インターネットホームページへの掲載と店舗へのぼり旗・ポスターを配布して提示をお願いしています。しかしのぼり旗が邪魔になるため提示していただけなく、保護者等の目につかないような状況があります。
また、令和７年 10 月には「こども連れで利用できる店」を GIS（やまがデジタルマップ）で公表しています。

≪子育て応援の店の周知について：別紙回答書⑥に記載≫

廣瀬委員（社協）：「地域で住民同士が顔の見える関係づくりが一番大切。また、子どもの意見にあった体育館へのエアコン設置など、防災拠点としての整備も総合的に考えるべき」

≪体育館空調設置について：別紙回答書⑦に記載≫

川端委員（女性ネットワーク）：「市街地中心部に児童公民館（こどもの居場所）が必要」「子どもたちのアンケートが非常に具体的で素晴らしい。都市計画のグランドデザイン等にも強く反映してほしい」

≪子ども・若者アンケート結果の活用について：別紙回答書⑧に記載≫

山田委員（こども園長）：「子ども・若者のアンケートでこれほど公共交通機関への不満や不安が出るのは珍しい。ぜひ行政として力を入れて取り組んでほしい」

古川委員（小学校長）：山鹿市はとてもいいところだと思うが交通の便なども勘案してどこに家を建てればいいか分からない。

下田委員（幼稚園保護者）：以前、あんずの丘のアンケートがあったが、その後結果を知りたい。
子育て支援センターは未満児の時に行っていたが１歳～２歳で行く場所がない。

≪あんずの丘のアンケートについて：別紙回答書⑨に記載≫

６．その他

特になし

７．閉会

迎田副会長（閉会の言葉）：子ども真ん中政策の推進には、それを支える大人や行政の充実が不可欠であると述べ、「お互いに連携して山鹿の子育て・まちづくりを頑張っていきましょう」と呼びかけ、会議を締めくくった。

午後３時３０分　閉会